

SEMINAR HOUSE NEWS

セミナー・ハウス

No.147
1997.3・4・5

＝巻頭言＝

発想は考える楽しさを倍増させる

中村義作／2・3

■ 第172回大学共同セミナー

考える楽しさ

—あなたの頭をもっとやわらかくする—／4・5

■ 平成8年度教育プログラム白書／6

■ 平成8年度業務白書／7

■ 法人ニュース／8・9・10

■ 千人会・おたより・追悼／10・11

■ 寄贈図書・寄付／11

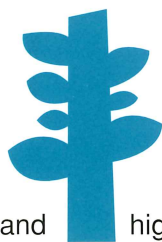
■ 業務通信・わたしたちの合宿／12

■ 新入生合宿に思う／13・14

■ 利用状況／15・16

■ 開催予告／16

■ 館長室から／16



Plain living and high thinking

財団法人 大学セミナー・ハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE, INC.

発想は考える楽しさを倍増させる

東海大学教育研究所教授 中村 義作

パスカルは「人間は考える葦である」と言っています。葦という植物はフラフラしていてもとても弱いけれど、人間は考えるという強力な武器を持っているのです。この講演を聞くとき、考えることが楽しくなって、きつと頭がやわらかくなります。

何もなければ考えられない

考えるというときにまず何よりも大事なことは、何も問題がなければ考えようがないということなのです。問題というのは、「ここに何かある」と常日頃から見ていないと出てきません。この見方をすれば問題はどこにでもゴロゴロしているのです。

例えばなぜ人間の頭にツムジがあるのか。あるから思いつくのですが、ボヤツとしていたら問題として気づきません。しかし犬や猿は？と考えていくと、ツムジがなければ人間が生きられない理由がわかります。解答は皆さんが考えてください。そして何でもいから皆さん自身が問題を見つけてください。

知識は博く——関係ない！決めてから知らない

問題意識を絶えず持つことは、いろいろな知識を何でも吸収するということです。問題というのは、先に自分で決めつけるものではありません。自分に関係ないと自分で決めてかかって知識を排除してはダメです。これしかやらないという人は、実はその「これ」にもひいでた発想が出てこない。知識というのは、全く違った意外なところで役に立つことがあるからです。

辞書を読せよ

ですから何でもたくさんさんの知識を吸収したほうが良い。例えば英和辞典、百科事典を読

②

む。私は若い頃に英和辞典を片っ端から覚えてきたことがあります。そうすると面白い単語がわかります。例えば本を読んだ途中のところまでペロッと折るといった単語は、日本語になら辞書を引こうとしても出てきません。「辞書を全部読むなんて冗談じゃない。あれは引くものだ」と思いかも知れませんが、辞書を引くことを英語では *consult* と言います。全部読んで一応理解した後で「ハテ忘れたけど、ものは相談ですが」と辞書を開いて「アッこれだ」というわけです。ですから辞書は全部読んだほうが良い。ゲラの校正をする著者のことを思えば、読むのは大したことありません。

知れば知るほど楽しくなる

辞書を片っ端から読んでいくと、実にいろいろなことに気がついて面白くなります。例えば英語の不規則動詞に規則性が見えてきます。少し説明しますと、英語の過去形の発音は三種類だけで *t* と *d* が語尾につけばよいのです。 *smell* は *smelt* になりますが *t* がつくだけです。 *knelt*/*knelt* も同様に、雨と傘で「あまがさ」になると同じで、言葉は発音しにくいと詰まるのです。 *cut* の過去形は *t* が重なって発音が難しいから省かれてるので不規則ではありません。口から出る言葉を文字に表すときに混乱するだけです。それでは *go* と *went* はどうか。日本語でも「来る」「する」は「カ変」と「サ変」で特殊です。これも宿題にしますが、他の外国語でも使用頻度の高い言葉は共通の特徴を持っています。不規則動詞は一つもありません。これは一〇ヶ国ほどの外国語を調べた私の持論です。

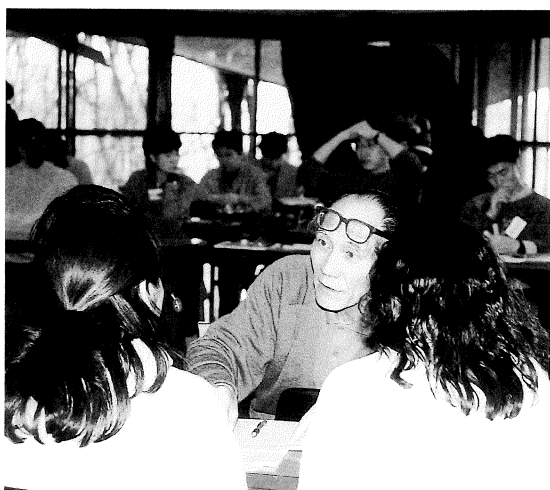
「何かおかしいんじゃないか？」という見

方で辞書を読んでいくと実に面白いことがたくさん出てきます。ですから大百科事典や英語の辞書をバンバン読んでください。「変だな？」って思ったことを考えたり調べたりしているうちに、だんだんわかってきて考えることが楽しくなります。そういう余裕をもって面白く学んでください。

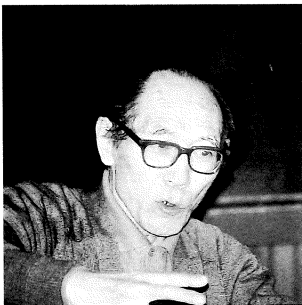
頭を使うほど冴えてくる

できないと諦めては絶対ダメです。人間の能力は訓練で備わります。機械は使うと壊れるけれど、人間は使うほどその機能が高まるのです。マラソンの選手が四二kmを一〇〇m一八秒台で走れるのも、野球で外野手が打球音を瞬間に聞いてボールの落下地点に走るのも、訓練を積んで体が覚えるからです。

頭脳も同じで、例えばプロの棋士は盤を使わずに「二六飛車」といった符丁で対戦できます。しかしランダムに並んだ二〇個の数字を瞬時に覚えることは彼らもできません。将



休憩時間にも熱のこもった指導をされる中村氏



中村 義作 (なかむら ぎさく)
1928年生まれ。専門は有限数学、応用数学、
情報科学、経営工学。著書に『算数100の難
問・奇問』『マンホールのふたはなぜ丸い?』
『よくわかる実践統計』などがある。

棋は互いに前の手が関連しているから、棋士の頭に盤面が浮かぶわけで、これは訓練しているからです。実は私も訓練をして、二桁のかけ算を暗算で瞬時にできるようになりました。

何でもいい、絶えず考え続ける

自分でテーマを決めたら、絶えずそれを考えることが次に大事なことです。普段は何も考えないで、あるときに突然良い考えを出そうとしても絶対に出てきません。昼夜なく考えに考え続けてもまだ足りなくらいにいつも考えないと、必要なときに出てきません。ですから、訓練して考える習慣をつけて頭をやわらかくしてください。

果報は練って待つ

では、良い考えはどうしたら出るか。面白いことを考えつく、つまり発想というのは、こう考えてこうやると答えが出るという学校の教科書のようなことでは出てきません。考えに考え続けていると、筋道もなくあるときパカッと忽然として出てくるものです。面白いことに、当人もどうしてそういう発想が出たのかわかりません。けれども、そこには卓抜した考えが入っているのです。

ポアンカレは『科学と方法』のなかで、まさにバスに乗りうとステップに足をかけた瞬間に「あっ」とフックス関数の解法を思いついたと述懐しています。解けずに苦闘していた研究を、外出の約束で渋々中断することになって、忘れかけたときにパカッと出たのです。帰宅して調べたら確かにそれで全部解けていました。

集中して考え続けると自分では意識していません。頭が絶えず考えるようになり

そのくらい考えてパツと休むと、良い発想がパカッと出てくることがあるのです。ポアンカレの場合がその見事な例です。ですからウーンと考える、そしてパツと休むということを心懸けると良いでしょう。

固定観念を取り払え

それから自分の固定観念でものを考えないこともとても重要です。初めに思ったことで決めつけると危険でおかしなことをする可能性があります。教育がよい例です。

私は、学生時代に算数の成績が一の小学五年生の家庭教師をしました。困ったことに二桁の足し算ができないのです。繰上げがどうしてもわからないので、私はそれなら繰上げなくともよい足し算と上の桁から借りなくともよい引き算の方法をその子のために考案しました。一年間で成績が一挙に五になりました。「できない子」という決めつけは間違いで、

わからなかったらその子供の特性に即した方法を先生が見つけ出さなければいけないのです。それを怠って、先生が一つの方法しか知らないから、それしかないという固定観念で「こうやって覚えろ」と押しつけてしまう。こういう先生がいると日本はおかしくなるのです。固定観念を取り払って問題に応じて考え方を転換していく。良い発想というのは、自分の考えを変えなければ出てきません。

問題に即して考えを変える

固定観念を取り払う方法としては、ブレイン・ストーミングがよく行なわれます。何でもいからできるだけ問題点を数多く出して、欠点や特性に分けて整理したチェックリストを作ります。そして問題ごとに対応するアイデアを出していくのです。これは発想法です

けれども、ときには別の方向に転換して考えることがポイントです。

その面白い例はボールペンで、年輩の人はご存じの通り、世に出た当初は、書いていくとペン先の球が摩擦で小さくなって落ちるのが欠点でした。インクでワイシャツが真っ黒になるので、すぐに売れなくなりました。そこでメーカーは小さくならない球の開発を競ったんです。もちろん球を硬くすれば簡単ですが、そうすると値段が高くなってしまいます。

ところが中田藤三郎という人は、球が小さくなる前にインクがなくなれば良いと考えたのです。そしてインクの量を減らして売り出しました。もっともみんなボールペンに懲りているので、田舎で「削らないで書ける鉛筆、三本百円」と銘打って売りました。これが大当りして都会でも売れるようになったのです。

九九・九八%は汗の結晶

しかし、こういう発明・工夫というのは、ボールペン一つにしても自分が本当に困っていたり望んでいないと出てこないものです。また、さらにその背後には、地道な努力の積み重ねが隠れています。

エジソンは、竹のフィラメントに辿り着くまでに一〇年間で数千種類の素材を実験しています。晩年に彼は「天才というのは2%の靈感と九八%の汗の結晶」だと言っています。が、そこが偉いところです。凡人の私たちは、〇・〇二%の靈感と九九・九八%の汗の結晶と考えればよいのです。近道を探さずに地道な努力をすることが、かえって良い発想を生み出す近道となることは間違いありません。皆さん、地道な努力をして考える楽しさをどんどん増させていってください。

(文責編集者)

考える楽しさ —あなたの頭をもっとやわらかくする—

▼主題講演

大妻女子大学社会情報学部教授

野崎 昭弘氏

▼特別講演

東海大学教育研究所教授

中村 義作氏

▼講義と演習

一、体力、知力、発想力を総動員

—発想物づくり大会—

東海大学教育研究所教授

秋山 仁氏

二、発想は考える楽しさを倍増する

東海大学教育研究所教授

中村 義作氏

三、「わかる」段階

大妻女子大学社会情報学部教授

野崎 昭弘氏

四、「やわらかい頭」にするために

大学セミナー・ハウス館長

岡 宏子氏

〔運営委員〕

大妻女子大学社会情報学部教授

野崎 昭弘氏

〔参加者状況〕

56名、27校（男子25・女子31）

④
らかい頭で、新しい道を切り開いてゆく」能力が要求されるのです。

最近「教科書の問題が解ければいい、答えを覚えてしまえばいい」という若者が増えてきた、という説があります。あたっているかどうかわかりませんが、そういう教育を長年やってきたのですから、そうなのかも知れません。しかしそうだとすればなおさら、「やわらかい頭の若者は」尊重され、「地の塩」として世の役に立つでしょう。またそうでなくても、借りものでもない自分の本当の力を一〇〇パーセント発揮することは、とても楽しいことなのです。そこで柔軟な発想を育てること、少なくとも、「自由に考えることの楽しさ」を理解していただくことを目指して、このセミナーを企画しました。

文系・理系を問わず、成績のいい人も悪い人も、興味さえあれば遠慮なく参加してください。そしておもしろいセミナーを、いっしょに作り上げましょう。

この呼びかけに人文系15名、社会科学系13名、自然科学系14名の学生および十数名の社会人が集まった。また、増加傾向にある大学院生の参加者も4名あった。このことから、セミナーの主旨は学生に伝わったと思われた。

プログラムは午後三時に開会し、まず野崎昭弘氏の「覚える」ことは「わかる」ことではなく、「わかる」ことは「おもしろい」につながるといふこの主題の導入の講演に始まり、次いで特別講演では中村義作氏が体験と実例を豊富に取り混ぜ、「考える」には何よりもまず知識を博く呼吸し、日々疑問を探し



かつ持ち続けることの必要性がのべられた。秋山仁氏からは事前に宿題が、「五个のコインをどの二点も接点を持つように配置せよ体験と実例を取り混ぜて」など数問、参加者に出されていた。夕食後の講義と演習で秋山氏は、この問題を第三日のグループ発表の課題として提示し、視覚的な趣向を凝らした実験を示して問題解決のヒントを与えた。その後参加者は初対面どうしでグループになり、いろいろな道具と材料を使って昼夜を問わず課題に取り組むことになった。

第二の午前は、中村義作氏の良い発想がどうしたら出てくるかの、豊富な事例とユーモアを織り交ぜての講義。(巻頭言掲載) 午後は野崎氏がカード手品を実演、種明かしと共に「わかる」ということには種々の段階があることを明かした。また、氏は自身の



にも熱心に耳を傾け拍手を送り、時に笑いや驚嘆の声を漏らした。また、いくつかの優れた発想の作品に対しては秋山氏から自著が賞品として与えられた。

全ての発表と講評が済み、正午に閉会となった。閉会時に回収した参加者アンケートでは、じっくりと問題に取り組んだことが収穫であったという回答が最も多かった。個性にあふれた講師の顔ぶれが自由に考える楽しさを醸し、それを促す大きな要因となっていたようである。

企画した通りこのセミナーが「考える楽しさ」を掴む契機となったことは、以下の感想文からお察しいただけるだろう。

参加者の感想から

「自分の感性を引き出す楽しさ」

恵泉女学院大学人文学部三年 岡本歩

経験をもとに、ある問題の論証を試みて自分がわかっていなかったことがわかり、それが理解をさらに深める契機になると話された。ティー・タイム後、岡宏子当ハウス館長は、参加者自身、ここまでの間でどのような頭の中のはたらきが行なわれたかを共に辿った上、「ワカル」こと「考えをつくり出すこと」とのちがいを、心理学の側面から分析した。その上で、現代の教育における学習の欠点を明らかにし、知的好奇心をもち、感動や楽しさを共働させることで、これからでも柔軟な思考力を育てることができると参加者を勇気づけた。

第二日の夕刻は課題制作に充てられ、手と口、頭を総動員する作業は深夜に及んだ。三日の課題発表では講師と全員の前で作品が発表された。参加者は、他のグループの発表

いたようで、「二分の一方の方が大きいと思う人」に二斉に手を挙げました。私は少し考えてから「三の方が二より大きいから三分の一方の方が大きい」と思い、三分の一方の方に手を挙げました。当然正答は二分の一ですが、当時の私にはとても納得できず、「どうして?」と何度も考え込んだものです。今思えばこの小さな疑問がいかほど大切だったことか。

今回のセミナーで先生方が「日常、たくさん疑問があふれている」といわれましたが、学校教育の中で疑問を感じるを育てることが、どうしてもっと重要視されなかったのでしょうか。個人の感性を封じ込める教育からアイデアのない、自分の考えのない人しか生まれない筈です。

このセミナーは参加者一人一人が自分の疑問点に直面し、それを追求する機会を私たちに与えてくれました。課題制作の時間は、私たちの感性を引き出す最良の授業だったと思います。用意された問題にグループ別に取り組み、最終日には午前二時頃まで熱中して試行錯誤を繰り返しました。それらの問題にアプローチしていく過程で、人それぞれの個性が見えたり、また自分はこんなふうに見える人だったのか、と自分自身の一面を見たり、さまざまな発見をすることができました。私はこのセミナーを通して「自由に考える」自分の感性を引き出す楽しさを発見しました。まだこれからも試行錯誤は続きますが、いつもこの発見を心に留めて、さまざまなことに挑戦してゆきたいと思えます。

「数学に再開」

聖心女子大学文学部一年 植松忍

「考える」という行為は誰にでもできることです。でも思っていたほど簡単にやれるものではなさそうだと感じました。

合宿中、班の人たちと夜遅くまで数学の問題を解きながら、こんなにゆとりよく考えるのは久しぶりだなと思いました。高一の時、数学の問題をずっと考えていたらある人に、「分からない問題をそんなに長い時間考えているのは時間もつたない。分からなかったら人に聞くのも必要だ」と言われました。それ以来私は、ある程度考えて分からないと人に教えてもらい、類題をいくつも解き、質より量で問題に慣れようとしてきました。

現在の学校教育では、考えるための問題は自分から見つけるのではなく、すでに与えられている場合がほとんどです。解らなければ解らない問題が多くて、一つの問題に時間をかける暇がないのです。

合宿から帰ると、約一年間ほとんど無縁だった数学がとてまたやりたくなりました。急いで本屋へ行って問題集を買い、倉庫から高校時代の数学の教科書を取り出しました。今はこの問題集を終わらせようと毎日少しずつ進めています。私は、この合宿セミナーへの参加で、再び数学に出会うことができました。

中村先生が、講義の中で、自分でできないとか、こうだと決めつけてはならない。まず調べてみなさい、とおっしゃったのが心に残りました。「考える」とは目標や目的に向かつて前向きに取り組んでいくことでもあると分かりました。

いろいろなことを考えて知識を増やし、考え方の角度を広げて、考える天才になりたいと思います。

平成8年度 教育プログラム白書

平成8年度は表1の通り、大学共同セミナー3回、大学院共同セミナー1回、大学教員懇談会1回、大学教員研修プログラム2回、国際学生セミナー1回の都合8回を実施した。

表2は、学生を対象とするプログラム(大

表1 平成8年度教育プログラム開催状況

■大学共同セミナー				
回数	期 間	主 題	講師・運営委員	参加人数
第170回 (1)	平成8年 10月26～27日 (1泊2日)	ハリウッド帝国の世界像 －イメージ・ポリティクス－	落合一泰、*桜井哲夫、村上由見子、 *山中速人、*吉見俊哉	59名 (24校)
第171回 (2)	12月7～8日 (2泊3日)	絶滅論	*松井孝典、河田雅圭、内田亮子、 坂田俊文、(長谷川真理子)	44名 (20校)
第172回 (3)	平成9年 3月7～9日 (1泊2日)	考える楽しさ －あなたの頭をもっとやわらかくする－	*野崎昭弘、秋山仁、中村義作、 岡宏子	56名 (27校)
■大学院共同セミナー				
第15回	平成8年 7月5～7日 (2泊3日)	ゲーム理論の新しい展開	*佐伯胖、富山慶典、神取道宏、 *長谷川真理子、山村則男、 山岸俊男、(野崎昭弘)	65名 (22校)
■大学教員懇談会				
第33回	平成8年 10月5～6日 (1泊2日)	大学、改革はしたけれど	グレゴリー・クラーク、中野収、合田隆史、 森島朋三、吉岡斉、(秀島武敏)、(北原和夫)、 (並河一進)、(安田忠郎)、(平野健一郎)	44名 (28校)
■大学教員研修プログラム				
第12回	平成8年 9月21～22日 (1泊2日)	「知」の感動を授業で創る	宮腰賢、島田博司、建部正義、 山口義行、安岡高志	65名 (49校)
第13回	平成9年 1月25～26日 (1泊2日)	カリキュラムを活かす	田中義郎、原一雄、松原静郎、 絹川正吉	85名 (68校)
■国際学生セミナー				
第23回	平成8年 11月22～24日 (2泊3日)	転換期の世界 －アジアにおける日米関係－	*滝田賢治、高杉忠明、*上坂昇、金重 敏、*宇佐美滋、澁谷司、*開場響子、 菊池努、*佐藤英夫、信田智人	105名 (32校)

注：*印は運営委員を兼ねた講師。()内は運営委員。参加人数は講師・運営委員を含まない。

表2 平成8年度教育プログラム参加状況

大 学 名	男	女	計	大 学 名	男	女	計
北海道	2	3	5	上智	4	3	7
茨城		1	1	成蹊	2	2	4
筑波	6	6	12	城西		1	1
埼玉	2	1	3	聖心女		8	8
千葉	2		2	専修	1	1	2
東京	15	3	18	中央	20	9	29
東京医科歯科	2		2	津田塾	1	1	2
東京外国語	1	1	2	東京海	1	2	3
東京学芸	2	1	3	東洋	2		2
東京農工	3		3	東京経	11	4	15
東京工業	7	1	8	女子		2	2
東京電	1		1	東京業	3		3
一橋	7	1	8	東京科	3	1	4
横浜国	2		2	東京理	7		7
立教	1		1	日本女	7	4	11
上京	5		5	日武		2	2
神戸		1	1	明政	1	2	3
奈良女		1	1	明治	3	1	4
長崎		2	2	学院	4	1	5
国立小計(19校)	58	24	82	星	1	1	2
東京都立	1		1	立	1	1	2
公立小計(1校)	1		1	早稲	4	3	7
明海	1		1	東洋英和女	15	7	22
青山学	3	2	5	学院		3	3
妻女子		2	2	国際	1		1
桜美林	3	3	6	志社	1		1
学習院	2		2	戸学	1		1
共立女		4	4	私立小計(41校)	124	86	210
立林	1		1	東京都立短期		1	1
慶應義	17	4	21	白梅学園短期	1		1
恵泉学		2	2	日本大学短期		1	1
国際基		1	1	防衛大学校	1		1
督教	3	7	10	短期・高等・その他(4校)	2	2	4
駒沢	1	1	2	社 会 人	15	17	32
百合女子		1	1	総合計(65校)	200	129	329

注1：計5回(第170～172回大学共同セミナー、第15回大学院共同セミナー、第23回国際学生セミナー)

注2：総計329名のうち留学生は26名

学共同セミナー・大学院共同セミナー・国際学生セミナー)計5回の大学別参加状況表である。参加者総数は69校(昨年55校)・329名(同227名)であり、昨年極端に落ち込んだ参加者数を大幅に上回り、1回あたりの平均参加者数は以前の水準に戻った。また、ここ数年の特徴として大学院共同セミナーが活況を呈しており、今後回数を増やすことも委員

会で検討されている。教職員を対象とする大学教員懇談会と大学教員研修プログラムは3回開催し、合計194名(昨年187名)の参加者が国公私立の壁を越えて昨今の問題をめぐって意見交換を行なった。特に大学教員研修プログラムは2回で150名(同140名)の参加者を集め、授業開発・カリキュラム開発への関心の高さとこれらの問

題に対する研修会や意見交換の場の必要性が明確となった。最後に、これらのプログラムの企画・運営にあられた共同セミナー委員会、大学教員懇談会企画委員会、国際プログラム委員会、大学教員研修プログラム委員会の各委員、そして各セミナーで講師を務められた諸先生方に改めて感謝の意を表したい。

表1 利用者別宿泊延人数・グループ数

() 内は前年度

	グループ数	比率 (%)	宿泊実人数	比率 (%)	宿泊延人数	比率 (%)	1グループ平均人数
会 員 校	477 (504)	57.7	15,431 (16,609)	56.3	22,766 (24,873)	44.4	32 (32)
非 会 員 校	97 (121)	11.7	4,377 (4,750)	16.0	13,005 (12,513)	25.3	45 (39)
大 学 連 合	47 (52)	5.7	1,940 (1,878)	7.1	3,577 (3,474)	7.0	41 (36)
学 術・教 育 団 体	128 (123)	15.5	3,437 (3,959)	12.5	5,539 (6,304)	10.8	26 (32)
企 業・社 会 人 団 体	77 (82)	9.3	2,215 (2,087)	8.1	6,442 (5,706)	12.6	28 (25)
合 計	826 (882)	99.9	27,400 (29,283)	100.0	51,329 (52,870)	100.1	33 (33)

● 年間の宿泊利用者五万二、三二九人
平成8年度の宿泊利用者数は延べ五万二、三二九人(月平均四、二七七人)、グループ数は八二六(同六九)であった(表1)。対前年度比は一、五四一人減で、特に会員校と学術・教育団体の利用の減少が目立った。一方、前年度に引き続き受け入れたマレーシア政府

図1 利用グループ別構成比

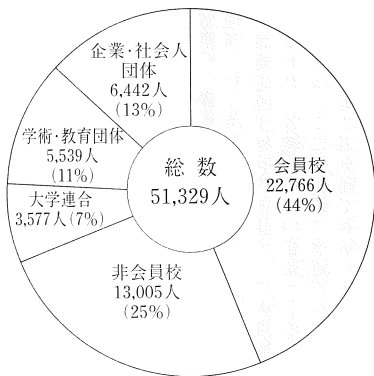


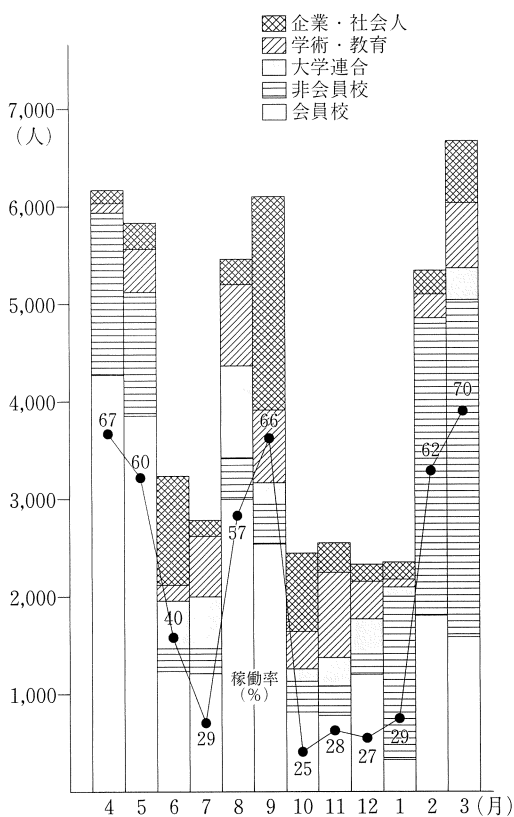
表2 協力会員校最多利用10校

大 学 名	グループ数	大 学 名	宿泊延人数
中 央 大 学	76	中 央 大 学	3,797
東 京 学 芸 大 学	33	東 京 学 芸 大 学	1,125
東 京 都 立 大 学	28	明 星 大 学	851
早 稲 田 大 学	24	東 京 都 立 大 学	830
明 治 大 学	17	早 稲 田 大 学	799
立 教 大 学	17	東 京 工 科 大 学	789
東 京 大 学	16	立 教 大 学	777
駒 沢 大 学	15	お 茶 の 水 女 子 大 学	703
一 橋 大 学	12	明 治 大 学	675
慶 應 義 塾 大 学	12	大 妻 女 子 大 学	597

派遣留学生94名の3カ月にわたる長期滞在は延べ七、二二八人に達し、これまで最大の人数となった。なお、開館から本年度末まで(31年9カ月間)の宿泊利用者数は延べ一五二万四、一三二八人、グループ数は三万八三三に達した。

⑦

図2 月別・利用者別宿泊延人数と稼働率



● グループ別の利用状況
宿泊延べ人数全体に占めるグループ別の構成比は図1に示す通りである。「会員校」(本年度末現在計六六校)の利用は二万二、七六六人で、構成比は四四%(前年度四七%)であった。「大学連合」には当ハウス主催の各種プログラムをはじめ会員校の教師・学生が多数参加する集会所が含まれているので、「会員校」の利用率は実質的にはこれより高い。「非会員校」を加えると大学関係の利用の構成比は計六九%となるが、一方、「学術・教育団体」にも大学関係者が相当数含まれている。

● 年間の稼働率四六・九%
大学関係の利用の主流は、いわゆるゼミ合宿、次にサークル等課外活動の合宿であり、宿泊数では一泊が圧倒的に多い。また、春から夏にかけて、例年、新入学生の合宿研修(オリエンテーション)が繰り広げられるが、クラス単位以上の合宿は計六一グループ(三二校)、延べ八、八八一人を数えた。なお、ご参考までに、本年度最多利用の会員校一〇校を表2で紹介した。グループ数・宿泊延べ人数とも中央大学が平成元年度以来八年間連続で最多利用校であった。

「学術・教育団体」と「企業・社会人団体」の構成比は双方で計二四%(前年度二三%)であった。

● 年間の稼働率四六・九%
本年度の当ハウスの稼働日数は、年末年始の休館九泊分と6月の施設整備期間四泊分を差し引いた三三三日で、宿舍(収容定員三二〇人)の年間平均稼働率は四六・九%(前年度四八・二%)であった。図2に月別・利用者別の利用状況と稼働率を示したが、平均を下回る月は、例年同様、年度の後半、秋から冬にかけて多くなっている。

平成8年度
第89回理事会・第69回評議員会

97年3月31日/アルカディア市ヶ谷

【出席者(順不同)】(理事) 佐野博敏、岡宏子、中川秀恭、天城勲、三宅彰、宇野重昭、岡野加徳留、村山松雄、清成忠男、中嶋嶺雄、絹川正吉(評議員) 川原栄峰、内藤正、井早康正、野村東太、磯田浩、宮本美沙子、古浜庄一、田中誠之、高橋茂、望月清司

【委任状による者】理事8名、評議員53名

佐野理事長が議長となり議事が進められた。岡専務理事から各議案について逐次提案説明があり、それぞれ質疑応答・審議の結果、いずれも原案通り承認された。

▽評議員人事に関する件

協力会員校の学長交替に伴うお茶の水女子大学長佐藤保、津田塾大学長志村尚子、東京大学長蓮實重彦、横浜国立大学長板垣浩各氏の評議員新任と、右記大学前学長の太田次郎、天満美智子、吉川弘之、野村東太各氏の評議員退任。協力会員校加盟に伴う東京純心女子大学長山田雅子氏の評議員新任。ソニー名誉会長井深大氏の評議員退任(前回の理事会で承認済み)に伴う同代表取締役会長大賀典雄氏の評議員新任。

▽役員人事に関する件

東京大学長蓮實重彦氏の理事新任。

▽協力会員校の加盟に関する件

東京純心女子大学(現代文化学部/英米文化学科・芸術文化学科、東京都八王子市滝山町)の協力会員校加盟。なお、準協力会員校であった東京純心女子短期大学は四年制大学への改組に伴い平成9年3月31日付で廃止。

▽平成9年度事業計画案および収支予算案に関する件

主要な事項は次の通りである。①宿泊利用者は、引き続き不況に加え、諸般の事情による大口社会人団体の利用中止、3年来受け入れてきたマレーシア政府派遣留学生の減員などを勘案、延べ五万人と設定した。②協力会員校会費、利用料金はともに据え置きとする。③施設・設備全般の老朽化の中で、その改修に伴う固定資産の取得および修繕費が逐年増加しているが、その主なものは本館への井水揚水管の引替え、

平成9年度一般会計収支予算書

(平成9年4月1日～平成10年3月31日) (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
基本財産運用収入	80,800	人件費	110,348,000
会員校会費収入	63,800,000	施設管理費	45,487,000
事業収入	185,470,000	その他の管理費	28,079,220
施設改修協力金収入	7,950,000	一般事業費	25,236,280
セミナー会費収入	6,150,000	普通セミナー事業費	40,435,220
補助金等収入	7,175,000	学生指導セミナー事業費	5,726,000
寄付金収入	180,000	国際学生セミナー事業費	3,685,000
雑収入	4,837,200	固定資産取得費	15,000,000
		予備費	1,646,280
当期収入合計(A)	275,643,000	当期支出合計(C)	275,643,000
前期繰越収支差額	104,000,000	当期収支差額(A)-(C)	0
収入合計(B)	379,643,000	次期繰越収支差額(B)-(C)	104,000,000

(注) 消費税の処理は税抜き方式によっている。

平成8年度一般会計収支計算書

(平成8年4月1日～平成9年3月31日) (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
基本財産運用収入	99,563	人件費	113,565,680
会員校会費収入	63,650,000	施設管理費	44,853,016
事業収入	185,251,058	その他の管理費	18,659,756
施設改修協力金収入	8,074,800	一般事業費	22,166,525
セミナー会費収入	7,352,500	普通セミナー事業費	36,700,378
補助金等収入	7,175,000	学生指導セミナー事業費	8,526,894
寄付金収入	414,250	国際学生セミナー事業費	3,382,466
雑収入	6,296,467	固定資産取得費	24,888,798
その他の収入	1,136,123		
当期収入合計(A)	279,449,761	当期支出合計(C)	272,743,513
前期繰越収支差額	103,417,585	当期収支差額(A)-(C)	6,706,248
収入合計(B)	382,867,346	次期繰越収支差額(B)-(C)	110,123,833

(注) 消費税の処理は税抜き方式によっている。

平成9年度
第90回理事会・第70回評議員会

97年6月2日/アルカディア市ヶ谷

サービス・センターのバコティンボイラーの更新、ユニット・ハウス宿舍群暖房配管の追加補修などである。④交友館をハウスの事業の一層の魅力の一つとするため、「交友館委員会」でその運営方針を再検討した結果、(南)大学セミナー・ハウス食堂と一体化した形で新たに委託契約を締結。今後同館はより幅のある実質的なサービス提供を目指すこととする。

▽就業規則の一部改正案に関する件

先に提案された「了承された改正案は、その後一諸規定改正検討作業部会」で再点検と確認が行なわれ、各職員からの意見と了承を得た。同改正案はここに最終的に承認され、労働基準監督署への届け出を経て本年4月1日付で施行となる。

【出席者(順不同)】(理事) 佐野博敏、岡宏子、中川秀恭、天城勲、三宅彰、宇野重昭、村山松雄、中嶋嶺雄、(評議員) 川原栄峰、井早康正、佐藤保、磯田浩、古浜庄一、志村尚子、櫻井敷、小倉芳彦、高橋茂、朝倉孝吉、望月清司、山田雅子

【委任状による者】理事13名、評議員59名

佐野理事長が議長となり議事が進められた。岡専務理事から各議案について逐次提案説明があり、それぞれ質疑応答・審議の結果、いずれも原案通り承認された。

▽評議員人事に関する件

協力会員校の学長交替に伴う芝浦工業大学長小口泰平氏の評議員新任と同大学前学長大木修氏の評議員退任。諸般の理由による退任がすでに理事会で承認されていた財界関係評議員、三井不動産相談役江戸英雄氏ら6氏の後任者の人選は理事・評議員でさくら銀行相談役名譽会長の小山五郎氏に推薦を依頼して進めているが、候補者が揃い次第書面にて理事各位の承諾を得

ることで、最終的な決定は理事長一任とされた。

▽役員人事に関する件

協力会員校の学長交替に伴う東京大学前学長吉川弘之氏の理事退任(同大学長蓮實重彦氏の理事新任は前回の評議員会で承認済み)。

▽平成8年度事業報告案および決算報告案に関する件

主要な事項は次の通りである。①宿泊利用者は延べ五万一千三百九人で、対前年度比一、五四一人(二・九%)減、稼働率は四六・九%(前年度四八・二%)で、予算の基礎とした五万三、〇〇〇人を下回り、事業収入は約一千万円の減となった。②支出面では、施設・設備の修繕費に約一千万円、固定資産取得支出に二千四百万円と依然多額の費用を要したが、諸経費の節減にも努めた結果、収支差額は千八万三、〇〇〇円となった。③セミナー事業では、大学教員懇談会と大学教員研修プログラムが、全国規模の参加を得てますます盛況で、現在大学が抱える諸問題および教員の魅力

開発(FD)について熱心な討議が続けられて

いる。このような活動を中心とする全国の国公

私を越えた。大学教育のための連合体セン

平成8年度 第3回常務理事会

97年3月31日/アルカディア市ヶ谷

【出席者】(常務理事)三宅彰、小山宙丸、宇

野重昭、中嶋嶺雄、絹川正吉、(法人)佐野博敏

理事、岡宏子館長・専務理事

平成9年度 第1回常務理事会

97年5月31日/アイビーホール

【出席者】(常務理事)宇野重昭、中嶋嶺雄、

絹川正吉、(法人)佐野博敏理事、岡宏子館

長・専務理事

●主な議題

評議員・役員人事、平成8年度事業報告案・

使用料改訂の可能性、他。

平成8年度 第2回大学教員懇談会企画委員会

97年3月21日/アイビーホール

【出席者】平野健一郎、中西又三、秀島武敏、

高倉翔、秋葉裕一、吉川政夫、松山正男、北原

和夫、田邊和子、並河一、西川孝夫、藤本義

幸、安田忠郎、山本和、山本真一

【ハウス側】岡宏子館長ほか企画室職員4名

●主な議題

第33回大学教員懇談会「大学、改革はしたけ

れど」の実施報告、第33回大学教員懇談会記録

書の編集経過、第34回大学教員懇談会の企画、他。

平成8年度 第4回共同セミナー委員会

97年3月24日/アイビーホール

【出席者】宇波彰、伊藤正直、長谷川真理子、

伊東孝之、江原由美子、小森陽一、井上信子、

小松弘、宮島喬、山中速人、吉見俊哉、市村禎

二郎

【ハウス側】企画室職員3名

●主な議題

第170回大学共同セミナー「ハリウッド帝国の

世界像―イメージ・ポリテクス―」・第171回

大学共同セミナー「絶滅論」・第172回大学共同

セミナー「考える楽しさ―あなたの頭をもっと

やわらかくする―」の実施報告、平成8年度教

育プログラムの総括、第173回大学共同セミナ

「新しい映画史を考える」・第174回大学共同セミ

ナー「都市と視線―塔からパトチャルリアリテ

ィーまで」・第175回大学共同セミナー「地球

市民になろう(仮題)」・第176回大学共同セミナ

ー「企業社会とジェンダー(仮題)」の準備状況、

平成10年度の企画、他。

平成8年度 第5回大学教員研修プログラム委員会

97年3月28日/アイビーホール

【出席者】絹川正吉、原一雄、福田一郎、井下

理、佐々木一也、建部正義、宮腰賢、山内正平、

蛸山道雄、丹羽泉

【ハウス側】岡宏子館長ほか企画室職員3名

●主な議題

平成8年度大学改革推進等経費の実績報告、

平成9年度大学改革推進等経費、第14回大学教

員研修プログラムの企画、第13回大学教員研修

プログラムのアンケート結果分析、「座談会」カ

リキュラムとは何か、他。

平成9年度 大学教員研修プログラム委員会

第1回 97年4月16日/アイビーホール

【出席者】絹川正吉、福田一郎、井下理、建部

正義、中田良平、宮腰賢、山内正平、蛸山道雄、

小林志郎、丹羽泉

【ハウス側】岡宏子館長ほか企画室職員3名

●主な議題

平成8年度大学改革推進等経費の実施報告、

平成9年度大学改革推進等経費実施報告、第14

回大学教員研修プログラムの企画、「座談会」カ

リキュラムとは何かの編集、他。

第2回 97年5月20日/アイビーホール

【出席者】絹川正吉、原一雄、福田一郎、井下

理、佐々木一也、建部正義、中田良平、宮腰賢、

山内正平、蛸山道雄、丹羽泉、清水一彦

●主な議題

新委員の紹介、第14回大学教員研修プログラ

ムについて、「座談会」カリキュラムとは何かの

編集、他。

平成9年度 大学教員研修プログラム委員

(就任順、○印は新任、敬称略)

委員長) 絹川正吉 国際基督教大学教授(数学)

(副委員長) 原一雄

重細亜大学教授(生理心理学)

福田一郎

東京女子大学文学部教授(遺伝学)

井下理 慶應義塾大学総合政策学部教授(社会心理学)

亀山純生 東京農工大学農学部教授(倫理学)

佐々木一也 立教大学文学部助教授(哲学)

建部正義 中央大学商学部教授(金融論)

中田良平 電気通信大学電気通信学部教授(電子工学)

宮腰賢 東京学芸大学教育学部教授(国語学)

山内正平 千葉大学園芸学部教授(西洋文化史)

蛸山道雄 上智大学外国語学部教授(国際政治)

小林志郎 東京学芸大学教育学部教授(演劇学)

丹羽泉 東京外国語大学外国語学部助教授(宗教学)

清水一彦 筑波大学大学教育センター助教授(高等教育)

平成9年度 第1回国際プログラム委員会

97年5月12日/アイビーホール

【出席者】宇佐美滋、佐藤英夫、滝田賢治、上

坂昇、納家政嗣、大芝亮、勝保誠、志村尚子、

関場誓子

【ハウス側】岡宏子館長ほか企画室職員3名

●主な議題

第23回国際学生セミナー「転換期の世界―ア

ジアにおける日米関係―」の実施報告、第24回

国際学生セミナーの企画、他。

平成9年度 第1回共同セミナー委員会

97年5月29日/アイビーホール

【出席者】宇波彰、伊藤正直、長谷川真理子、

野崎昭弘、伊東孝之、井上信子、村上陽一郎、

吉見俊哉、

【ハウス側】岡宏子館長ほか企画室職員3名

●主な議題

第173回大学共同セミナー「新しい映画史を考

える」・第174回大学共同セミナー「都市と視線

9

「塔からバーチャルリアリティまで」・第175回大学共同セミナー「地球市民になろう」・第176回大学共同セミナー「企業社会・ジェンダー・家族（仮題）」の準備状況、平成10年度の企画、他。

平成9年度

共同セミナー委員

（就任順、○印は新任、敬称略）

〈委員長〉
宇波 彰
明治学院大学文学部教授（哲学・記号論）

〈副委員長〉
伊藤正直
東京大学経済学部教授（日本経済論）

長谷川真理子
専修大学法学部教授（行動生態学）

〈委員〉
野崎昭弘
大妻女子大学社会学部教授（情報科学）

伊東孝之
早稲田大学政治経済学部教授（比較政治学）

佐伯 胖
東京大学教育学部教授（教育方法学）

松井孝典
東京大学理学部助教授（比較惑星学）

小森陽一
東京大学教養学部助教授（日本近代文学）

井上信子
日本女子大学人間社会学部講師（臨床心理学）

小松 弘
埼玉大学教養学部助教授（映像理論）

宮島 喬
立教大学社会学部教授（社会学）

村上陽一郎
国際基督教大学教養学部教授（科学史）

山中速人
東京経済大学コミュニケーション学部教授（社会学）

吉見俊哉
東京大学社会学部助教授（文化社会学）

○市村禎二郎
東京工業大学理学部助教授（物理化学）

○若桑みどり
千葉大学文学部教授（美術史）

千人会

'97年3月～5月

◆ご入会ありがとうございました

◆伊藤小百合殿・藤田保健衛生大学講師／C
◆秋山仁殿・東海大学教育研究所主任教授／終身

▼会員数 11、418名

◆会費ありがとうございました

富塚文太郎、佐藤百世、島田外志夫、井村君江、内藤博、人見宏、竹村五夫、佐藤毅、宮腰賢、谷口汎邦、高橋誠、林潔、磯直道、一松信、齋藤幸一郎、秋山仁、北村嘉行、山澤逸平、勝見允行、壽里俊、寺中良二、石黒哲郎、島美喜子、杉山好、土井恵美子、蓮見音彦、麻島昭一、崎義徳、小幡史朗、白川和雄、今井清一、原一雄、石井明、大山乃富子、山内正平、大西清、中田良平、柴田泰比古、絹川正吉、山田辰雄、栢植敏治、市川邦彦、岡村総吾、森山ヨシ子、中岡二郎、安藤英治、迫村純男、小原啓蔵、中野工、手塚千鶴子、手島修蔵、茂木光子、吉沢四郎、池原義郎、高瀬玉枝、村田晴夫、風間邦光、鈴木三男吉、佐藤玉枝、室本誠二、豊田陽子、加藤六美、西野万里、大河内正陽、福田一郎、木村建一、手塚喬介、小倉芳彦、河村フジ子、尾田綾子、関口富左、牧野誠一、大槻盛一、柳下登、佐藤慶幸、木田宏、佐藤公孝、内山正熊、村田和巳、杉浦銀治、島田治夫、小山五郎、春田素夫、田中喜久昭、伊藤意智郎、細井勉、関根隆光、村山松雄、堤彪、小原孝一郎、小松雄二、熊田陽一郎、石弘光、河田喬夫、江淵浩美、徳川陽子、藤井弥太郎、海老洋四朗、久保田浩、梶原陽子、佐藤美喜子、矢老根宏、安藤賢一、高峯一愚、堀野定雄、都留春夫、西勝、松澤通生、染谷恭次郎、大友浩、木村尚三郎、福西基、井上繁、林肇、向山文雄、伊倉退蔵、清水昭次、藤木宏幸、萩原稔、鈴木達雄、横山勝信、井上宇市、比留間敦子、桐生富久、佐伯彰一、加藤秀俊、高木健太郎、下森定、北野弘

久、太田正孝、吉利喜美、水野弘文、犬塚博、本明寛、正田亘、富山芳正、後藤捨男、柏原啓一、永井道雄、逸見謙三、荒井献、山下肇、芳賀徹、高柳暁、天城勲、内田祥哉、今井栄、峰岸純夫、國分久子、狩野紀昭、今井義夫、加藤晴久、小林保彦、滝口俊子、近藤正夫、奥野忠一、廣田達衛、木村敦、望月清司、西成典子、高橋忠次郎、伊藤喜栄、深海博明、川川有史、澤島脩子、福島明、中嶋嶺雄、古西信夫、児玉昭太郎、奥山典生、土屋英司、西澤宗英、千野熊男、村瀬旻、朝野洋一（敬称略）

おたより

●一九一四年生まれですけれど、今のところ、いたって元気になっています。（佐藤百世）

●メッセージありがとうございます。生ある喜びと感謝をこめて貧者の一燈を捧げました。（司法書士・高橋誠）

●しだれ櫻と本館の美しいカードをありがとうございました。校務で附属小に出、教務主任の尊父のご逝去との報に接するあわただしい3月3日でありました。夕刻ご自宅に何うと79歳で亡くなったかつての校長のおだやかな表情がありました。底冷えのする春の夜でした。（東京学芸大学教授・宮腰賢）

●小生75歳になりますが、来年度も相変わらず水戸に毎週2泊3日の生活がつづきます。皆様御自愛ください。（常磐大学教授・斎藤幸一郎）

●昨年3月末日をもって東京電機大学を定年退職しましたが、明年3月まで客員教授という地位を頂いて、引き続き勤務しております。（松信）

●昨年度定年の始末に追われ、失礼しました。早稲田から東京理科大（経営学部）に移りました。（寿里茂）

●「しだれ桜と本館」の美しいカード、それに優しいお言葉を添えて頂きうれしく存じております。岡先生のご健康を念じ上げます。（日本女子大学図書館友の会・土井恵美子）

●私はこの3月で東京女子大学の定年を迎えますが、まだ、1年位は余裕ある生活ということにはなりそうもないようです。いつかお訪ねす

る機会があればと思っております。（島美喜子）

●昨年末は体調を崩して動きがとれず、ようやく3ヶ月遅れて千人会の会費を払いこみます。結局4月11日に手術を受けて3週間ほど療養の予定ですが、生命の危険が迫っているほどではありませんので御心配なく。ハウスへの再訪の許されるのを待ち望んでおります。（恵泉女学院大学教授・杉山好）

●心温まるお言葉と共に誕生日のお祝いカードを頂き有難うございました。お陰様で元気で誕生日を迎えることができました。現在大学院法学研究科委員長を務めております。（東洋大学教授・白川和雄）

●はじめてお世話になりましたのが、一九七七年です。その間、さまざま思いをいただき、その中からでて来た神学校も、設立8年を迎えます。感謝。（御茶の水キリストの教会・小幡史朗）

●早いもので定年まであと4年、それまでは毎年貴設備をゼミ合宿で利用させていただきま

●誕生日に大学セミナー・ハウスからお祝いのおことは頂くことは、大学人にとつての光栄です。ハウスはそういう存在になりつつあると思います。（国際基督教大学長・絹川正吉）

●退職後6年になりますが、研究を続けることができることを大変幸せと存じております。来る1年も研究が続け得ることを期待しております。大学セミナー・ハウスの益々の御発展を祈ります。（上智大学名誉教授・市川邦彦）

●御繁忙の中から、変わることなく毎年御挨拶を会員に贈り続けられることだけでも大変な御仕事と存じ、心からの敬意を表明させていただきます。御健康には何卒御配慮下さりませう。（成蹊大学名誉教授・安藤英治）

●おかげさまで櫛の木も元気ですくすくと育っていますし、私も84回目の誕生日を迎えました。春と秋には必ず逢いに行っておりますが、その節いつも職員の方々に親切にしてください感謝いたしております。よろしくお伝えおき下さるようお願いいたします。（前白梅学園理事長・鈴木三男吉）

●2月に夫を亡くして、1人で老後を過ごすことになりました。しかし、元気で65回目のパーティーを迎えることができ、感謝しています。

平成8年度千人会
会計収支計算書

(平成8年4月1日～平成9年3月31日) (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費収入	3,518,000	印刷製本費	270,736
雑収入	48,997	払込手数料	39,248
その他の収入	60,076	国際学生セミナー補助	132,000
		雑費	6,180
当期収入合計(A)	4,167,073	当期支出合計(C)	448,164
前期繰越収支差額	19,722,951	当期収支差額(A)-(C)	3,718,909
収入合計	23,890,024	前期繰越収支差額(B)-(C)	23,441,860

(注) 消費税の処理は税込み方式による。

●(東京家政大学教授・河村フジ子) FD大学教員研修会で岡宏子先生が明るく、積極的に発言なさって嬉しいです。
(東京女子大学教授・福田一郎)

●すっかりご無沙汰いたしております。真を学ば、真から学ば世に広めたいものです。
(国立音楽大学教授・佐藤孝考)

●会社を引退してから2年、ひと頃体調を崩しましたが持病と仲良く付き合いつつ晴耕雨読(小さな家庭農園)と趣味に生きております。
(元内外図書社長・村田和巳)

●小生の還暦をお憶え下さり感謝です。生かされていること、自分なりのつとめ(社会への奉仕・貢献)ができることも感謝しています。館長のご健康が守られますように、セミナー・ハウスが益々用いられますように祈り上げます。
(東京女子大学事務部長・島田治夫)

●丁度退院の日にお便りを頂きました。嬉しく拝見しました。
(順天堂大学名誉教授・関根隆光)

●岡館長先生、御元気で何よりです。余り無理なさらないで下さい。白梅短大、何時もお世話になっております。白梅学園理事長・小松雄二

●先日久しぶりのバスで八王子から野猿沢、セミナー・ハウスの下を通り中山に出て大沢の新居に帰ってきました。なつかしい風景でした。またときどき使わせて頂くかと思っております。
(国際基督教大学名誉教授・都留春夫)

●私も大学を離れて四回目の誕生日を迎えました。元気でおりますので、他事ながらご休心下さい。
(早稲田大学名誉教授・染谷恭次郎)

●87歳を迎えましたが尚地上にあつて御用に応える光栄を感じております。
(福西基)

●満85歳を迎え元気で過ごしております。貴財団のご発展をお祈り申しあげます。(井上繁) ●ことしも元気に76才の誕生日を迎えることができました。いつもグリーンディングカードに添え書きを頂き恐縮に思います。
(横浜国立大学名誉教授・伊倉退蔵)

●今年も小生古希で、そのことを記憶ください。丁度誕生日にカードをいただき、大変うれしゅうございました。会費にあわせて、僅かですが感謝の寄付をお送りさせていただきます。
(学習院大学教授・清水昭次)

●誕生祝いのお便りありがとうございました。セミナー・ハウスの益々の御発展をお祈り申し上げます。(法政大学名誉教授・横山勝信) ●岡先生の柳麗な筆になるお言葉ありがとうございました。戴いたしました。まだ現役で働かせていただいておりますこと幸せに存じております。
(日本フレンズ奉仕団理事・桐生富久)

●年とともに、時の動きが加速してくる感じが、わが身の誕生日さえ、すぐぐつて来てしまいます。優しいメッセージ心に沁みわたりました。ご自愛のほどを。(東京大学名誉教授・佐伯彰二)

●東大比較文学会の毎年三月の合催セミナーではいつもお世話になっていて、有難うございます。今年も小生の京都・日文研退官の行事と重なって欠席してしまいました。これからはまた東京で、大正大学に新設の比較文化の大学院。家から近く快適です。
(東京大学名誉教授・芳賀徹)

●喜寿の誕生日を迎え、何とか生きのびており、心ばかり御送金いたします。
(東京大学名誉教授・山下肇)

●今年の夏もエンカウンターでお世話になりました。誕生日をお祝い頂き我にかえりました。ありがとうございます。何故か元気で未だオフィスにすわっております。大学セミナー・ハウスのますますのお働きを祈ります。
(今井栄)

●最近も勤務先の大学セミナーハウスを利用することが多く、貴セミナー・ハウスに伺う機会が少なくなり残念です。
(青山学院大学教授・小林保彦)

●病のため(脳梗塞)1年間休んでいました。幸い仏道修行が心を救ってくれました。5月より復職します。

●四月に白内障の手術を受けましたが、どうやら網膜にしわがあった模様で、予後しばらくの間がかりそうです。内視も半分というところでしょうか、ごめんなさい。しかし医師の進歩のすばらしさに感謝をささげたく。
(学習院大学名誉教授・近藤正夫)

●20(一)年連続での春期合宿も、とうとう今年で一昨年までで終了しました。退職に備えて4年生だけのゼミになっていますが、その4年生は3月から就職活動を始めたからです。お世話になりました。
(専修大学長・望月清司)

●最近合宿を行なうような授業を持つておりませんので、少々ごぶさたしております。また、いざれよろしく願います。来春は日独地理学会にてお世話になります。世話人は法政大学の山本健児さんです。よろしく。
(神奈川大学教授・伊藤喜喜)

●97・8・5、文教研46回集会は、大学セミナー・ハウスでお世話になってから、一〇一回めです。午後7時からの懇親会に岡先生のご挨拶をたまわります。ささいい、わい。
(国立音楽大学教授・荒川有史)

●停年退官してから二年がたちました。おかげ様で何とか健康に過ごさせていただいております。(お茶の水女子大学名誉教授・澤島信子) ●お陰様で元気に暮しております。先日美男におわず大佛に詣りました。
(湘南工科大学教授・児玉昭太郎)

みほとけは 動かず我にも 花吹雪
(湘南工科大学教授・児玉昭太郎)

●生前のご厚情に感謝し、謹しんで冥福をお祈りいたします

彦由一太氏(玉川大学教授、'96年4月21日没、61歳)ゼミ合宿11回、'71年以来千人会員として芳志を寄せられた。
大原栄一氏(元近畿大学教授、'96年9月28日没、70歳) '68年以後の後援者であられた。
磯村英一氏(元東洋大学学長、'97年4月5日没、94歳)元理事・評議員。'70年以降「人間・都市・土地」人間にとつて都市とは何か」など2回の都市社会学の共同セミナーで指導に当たられた。'69年以後の千人会員。



秀村欣二氏(東京大学名誉教授、元東洋英和女学院大学短期大学部学長、'97年4月8日没、84歳、'74年以降「神話・文学・聖書」西洋古典の人間理解」など2回の共同セミナーで指導教授を務められた。'69年以後28年間の千人会員。写真は、'76年6月の第84回大学共同セミナー(右記テーマ)で基調講演をされた秀村氏。

寄贈図書

'97年3月~5月

- 『わが「平和への船旅」―南十字と安保・沖繩』 尾形憲殿
- 『北太平洋圏のリーダーたち』 平野健一郎殿
- 『大学教育の本質』 絹川正吉殿
- 『鰐の涙』 大同生命国際文化基金殿
- 『マネー』『貨幣金融論の現代的課題』 建部正義殿
- 『大学教育研究フォーラム』 立教大学殿

寄付

'97年3月~5月

- 〈植樹〉
- みつばつじい東京学芸大学第33回KITC殿
- しだれ桜1株
- 生活共同組合コープとうきょう
- '97年度新入職員殿

業／務／通／信

97年3、4、5月の合宿研修から

ここ数年、大学・短大をはじめとする高等教育機関では、新入生に対する導入教育をどうしたらよいかに関心が高まっている。セミナー・ハウスでは、教員・職員・学生による寝食を共にしながらのオリエンテーション合宿が春のキャンパスを連日賑わした。そこで、ユニークな試みをいくつか紹介したい。

異彩を放っているものとしてまず目を引くのが、4月初旬に実施された東京薬科大学のオリエンテーションである。今春で19回目を迎えたこの試みは、在学生が実行委員会を組織し、オリエンテーションの企画やガイドブックなどの事前準備を進め、入学予定者に参加を呼びかける。もちろん当日は、教職員の方も参加して開催されるが、入学式前の新入生と在学生は、この合宿で初めてお互いに顔を合わせるようになる。

上級生の班長を先頭にグループに分かれての交流プログラムでは、上級生や先生方と親しく交流する機会を持つ。最終日にはすでに以前から知り合っていたと思えるくらい親しくなっているという。この試みは、今後も先輩から後輩に年々受け継がれていくにちがいない。

十文字学園女子短期大学では、プレイバックシアターと呼ばれる「積極的自己表現と共感を目指すパフォーマンス」をプログラムの冒頭に置いて、友達作りの環境を提供している。誰かが体験したこととをみんなの前で話をさせ、それを数人の演者によって即興劇にして演じる。自分が一番素直な状態でいられる居心地の

いい感覚を獲得することを通して、はじめて出会うもの同士がどうしたら仲良くなれるかを体験する。

日本女子大学社会福祉学科では、「わたしにとっての社会福祉」「社会福祉学科で学びたいこと」「私のボランティア活動」「将来の目標」などのテーマごとにグループに分かれて、討論中心にこの学科への動機づけを自覚させるためのプログラムを展開する。

また、武蔵工業大学や大妻女子大学社

わたしたちの合宿

四半世紀を迎えた フレッシュマン・セミナー

文教大学女子短期大学部英語英文科教授

野村 ヒサ

木もれ陽のあたる林の中から、女子学生たちの明るく弾けるような笑い声が聞えて来る。それが大学セミナー・ハウスについての私の第一印象です。

文教大学女子短期大学部英語英文科の学生二百数十名が、この美しい緑に囲まれたセミナー・ハウスでフレッシュマン・セミナーの合宿をするのは、今年で二十五回目だと聞いています（昭和五十二年以前は立正女子大学短期大学部と呼ばれていました）。

いつもの年は、五月の第3週の後半に、二泊三日の忙しく楽しいスケジュールをこなします。内容は四半世紀のうちに徐々に変わって来ましたが、目的は学生同志、また教員との親睦を深め、英語のネイティブ・スピーカーの発音に馴れることです。

ここ十年ほど行なわれているスケジュールでは、第一日は、講師をお招きして、講堂

⑫
会情報学部などでは、絹の道資料館を見学したり、高尾山にハイキングに出かけたり、多摩動物園に行ったり楽しみながら新入生相互の交流機会を意識的に提供している。

東京農工大学環境資源学科では、卒業生からのメッセージと題してS林業株式会社とN電気株式会社の社員が話をし、将来の目標を持つことの大切さを伝えていた。

あたらしい環境に馴染んでいない新入

で種々の講演をしていただきました。テーマは華道、茶道、英語等についてのものもあり、学長にお願いしたこともありました。終始英語でお話し下さった方も数人ありました。茶道の講義を英語でして下さった広瀬先生は、そのあと遠来荘でお点前をご披露なさいました。畳の上に座っていた学生たちはもちろん、外国人講師たちも、足がしびれて立ち上がれなくなったりしました。その後、各セミナー室に分かれて外国人講師たち（主にカレッジ・ウィメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン(CWAJ)のメンバー)と歌、ゲーム、ディスカッションなどで楽しい午後を過ごします。夜は岡田昌子先生のご指導でスコッチイシユダンスを習い、たいいてい二、三曲は踊れるようになります。このダンスはCWAJの皆さまにも好評で、学生たちといっしょに楽しくステップを踏んでおられます。

二日目は、一日目の午後と同様に英語のネイティブ・スピーカーと交流し、夜はキャンブファイヤーです。さわやかな五月の夜空には都心より多くの星影が見られます。

四半世紀の間に学生たちの気風も変わって来てはいますが、「トイレが屋外にあつて不便だ」という意見の他は不満はあまり無く、「食事とは思ったより美味しかった」とか「友人と

生は、物心両面にわたり不安を抱えている。一日でも早くキャンパス・ライフに慣れて、学習に集中できる環境を作る必要がある。迎え入れる側が新入生にどういう指導をしたかによって、学生のキャンパス・ライフの方向性が決まってしまう。オリエンテーションに参加した新入生たちが、どんな感想を持ったかは13・14頁をご覧ください。

大へん親しくなれてよかった」というのがおかたの感想です。



閉講式であいさつされる学科長の野村ヒサ教授



プレイバックシアターのパフォーマンスに見入る十文字学園女子短大の新入生たち——講堂にて

●大学セミナー・ハウスに着いて、私は自然がとても豊かなこと、そして部屋がとてもシンプルなことには驚きました。合宿セミナー中は不便さを感じましたが、考えてみると、そういう環境だったからこそ、たくさんの人と友達になることができて、たくさんのお話をすることができたのかもしれないと思います。入学してで、不安なことばかりだったけれど、これから始まる学生生活を楽しく過ごすことができそうです。

(恵泉女学院大学日本文化学科・阿部昌代)
●大学でうまくやっていけるのだろうかという不安を取り除いてくれたのが、このキャンプでした。キャンプで行なわれた茶話会では先生方とお話をする機会を持って、夜は消灯時間を忘れるほど、友達との話が花が咲きました。外はしだれ桜をはじめとした、色とりどりの花、緑に囲まれ、部屋の中はテレビなどない生活。この環境が、先生方、友達とのコミュニケーションの場になったのだと思います。このような場を与えてくれた先生方、セミナー・ハウスに感謝します。

(共立女子大学食物学科・高村美和)

●都立大に入学して一週間という早い時期にこの合宿があったことは、とても良いことだったと思う。この合宿を通して、先生方の人柄や友達を知り、これからの大学生活が楽しいような気がしてきた。私は、人と人とのつながりというのはとても大切なものだと思う。そのつながりをこのセミナーで作ることができた。これが少人数制の良さだということもわかった。これからもみんなで仲良く学んでいきたいと思う。

(東京都立大学機械工学科・小野恵梨子)
●新入生合宿セミナーに思うことは、と訊かれれば、まず山の瑞々しい空気と、木々の間から見える街の風景、そして夜空の星の煌めきを思い出します。私がこの合宿で得たものは、とても大きい。何よりも親友を作れたことが一番大きな収穫でした。夜に行なったグループ別のディスカッションは、他の人と考え方やものの見解を教え合い、刺激し合っていて、大変楽しかったです。私にとってこの合宿は、大学生活の本当のスタートだと思っています。

(日本女子大学社会福祉学科・細井宏美)

●「クラスの人と仲良くなること」入学して最初の課題がこれだった私にとって、最高の機会でした。小グループミーティングでは、これからの大学生活、将来のことをほぐれた雰囲気の中で話し合うことができました。そして夜は、カエルの合唱を聞きながら、できたばかりの友と楽しく語り合うことができました。セミナー・ハウスの思い出は、大学生活最初の思い出として強く残ると思います。

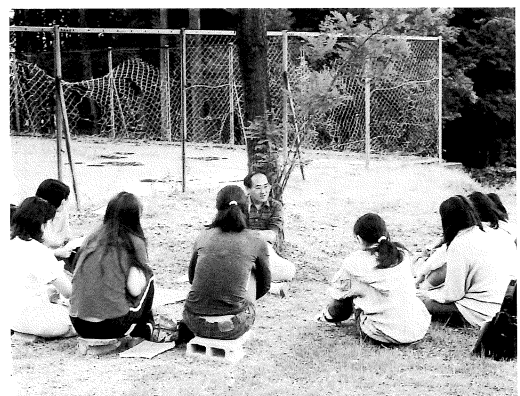
(大妻女子大学社会情報学部・河合美由紀)
●四月十六、十七日の二日間行なわれたフレッシュマン・キャンプで僕は、最初「早く帰りたい」とずっと考えていた。しかしその考えは一日目の夜に変わった。班別の発表会の時に、いろんな人のことをよく知ることができた。その時に二、三年の人達に授業のことをいろいろ教えてもらって参考になった。「フレッシュマン・キャンプ」は、堅苦しい行事

ではなくて、同じ学科内の人のことをよく知るための機会なんだ、と終った時に実感した。(武蔵工業大学電子通信工学科・内田鎮石)
●九州から上京し、友達もなくて淋しかった私にとって、ここでの二日間は、大学生活への期待と希望をふくらませるものとなりました。日頃は体験できない大自然の中の生活、そして、道に迷いながら先生の部屋へたどり着き、みんなで行なった討論会。さまざまな土地から集まったみんなの考えを、深く知ることができ、そして何よりも、友情を深めることができました。自然多きこの場で、大学生生活をスタートでき、うれしく思います。

(大妻女子大学児童学科・渡辺洋子)
●まずセミナー・ハウスに着いて思ったことは、妙に圧迫感のある建築物に驚いたことだ。今にでも降りかかってくるような感じだ。部屋のカギが一部屋に二つずつもらえたのはとても便利だった。食事はもう少し改良してもらいたいと思った。しかし、多くの友達と知り合えてよかった。

(東京学芸大学物理学科・川合善仁)
●大学セミナー・ハウスに行って驚いたことは、自然が沢山あったことと、不思議な建物があったことだった。傾斜にも柔軟に部屋が建てられてあり、これまでによく崩れなかったなど感心したほどだった。この自然が多い場所ですべて緊張して遠慮がちだった友達とも、もっと親しくなれたり、レクリエーションやミーティングなどで二年生と交流する機会があり、これからの学生生活の参考になる話が多かったのは、この大学セミナー・ハウスに来れたからだった。いろいろ貴重な体験を得ることができてよかった。

(十文字学園女子短期大学生活学専攻・古沢美香)
●入学して間もない時期に、このセミナー・ハウスでの研修会。アウトドア感覚の中でのガイダンス、自己紹介、先輩達との対談は学校で行なうのとは違った雰囲気であった。また、ガイダンス後の自由時間は、実質的には



教授を囲んで歓談する白梅学園短大の女子学生たち——テニスコートにて

仲間をつくる時間であり自己主張の機会でもあった。その中で友達づくりは学校の中と比べ、知らぬ間に友達という感じであった。私が思うに、この研修会は、自己の発見や仲間の素顔を見せてくれた場所だと思ふ。

(東海大学西洋史学専攻・有馬和幸)
●今も私の心の中にはあの合宿セミナーでの楽しく充実した三日間の満ちた思いが残っている。それは三日間あの山村のような不思議な環境の中でいろんな人のいろんな姿と触れあうことができたからかもしれない。また、いつも真面目くさった顔をして講義していた先生の、楽しそうに笑ったり話したりしている姿を見ることができたからかもしれない。この合宿によって短大すべての人が近く感じられるようになったと思う。

(白梅学園短期大学保育科・大森祥子)
●入学して間もない時期のこの合宿への参加は、とにかく不安でいっぱいだった。そのうえ、夕方から雨が降りだし、不安はピークに達した。けれど、新しい友達をつくるのには、それがかえってよかったのかもしれない。なぜ合宿がこの時期に、このセミナー・ハウス

で行なわれたのがよく分かった。その夜にどしゃ降りでも感じた風景は、次の朝には強い日差しを浴びて、とてもきれいだった。もう少し長くいたかった。

(共栄学園短期大学社会学専攻・田村聖美)

●セミナー・ハウスは、森に囲まれた緑豊かな場所、子供の頃よく遊びに行った裏山を思い出して、なんだか懐しく感じました。私はこのセミナーに参加して、いろんな人の外見からだけではわからない意外な一面を見ることができました。自由な時間をなかなか作れなくてみんなと集まることのできない私にとって、このセミナーでの出会いはとても貴重なものでした。今後の学校生活が、いっそう楽しくなりそうです。

(東京学芸大学生物学科・増田由香里)

●自分にとってこのセミナーが、大学について、より深く、広く知る助けとなりました。そして、これからの大学生活における自由と責任についても認識させられました。他にも、普段からは考えられないほど、教授たちと接近でき、硬いイメージだった教授たちと自由な話をし、自分の中にあつた教授という概念を破ることができました。友人も増えて本当に有意義な時間が過ごせました。

(東京工科大学機械制御工学科・鈴木旭)

●出発する時は、皆の名前を覚えて仲良くされるか、単位の取り方は理解できるかと不安でいっぱいでした。しかし、皆と一緒に食事をしたり散歩をしながらおしゃべりしたりするうちに不安は消えてしまい、キャンプファイヤーのダンスも二日目の動物園も心から楽しむことができました。また、高校とは違う、大学の自由な雰囲気を味わうこともできました。短い期間でしたが有意義なものだったと思います。

(お茶の水女子大学人間社会科科学科・酒井映)

●私がこのセミナーに参加して良かったと思うことは、友達との交流を深めることができたことです。また、学科で行なわれた討論会

においても友達の新たな一面を発見したり、いろんな意見を聞くことができ、教授方とも話す良い機会となりました。たった一晩だったけど、とても有意義なものになりました。

(東京学芸大学理学科教育学科・佐藤時子)

●一日という非常に短い時間での合宿であるが、ここでは大学での学年などの枠を取り払った、「コミュニケーション」を目的としていた。班を組み一つ一つのテーマについて各々がビデオなどを見て発表という形式を取っている。発表では、すべての班が良く意見がまとまっていた。コミュニケーションの良さ大切さを、より深く学び知ることのできたすばらしい合宿であったと思っている。

(東京工科大学電子工学科・太田隼二)

●セミナー・ハウスに着いた日は異様にむしむしとしていて、草いきれがたちこめていた。たけのこのにおいも混じっていて、幼い頃に行ったたけのこ掘りを思い出しつつハウスに入った。次々と行なわれる行事の中で印象に

残ったのはセミナーごとの話し合いである。大学において何がしたいのか、どんな結果を出したいのかを話し合う中で、知り合って実質一ヶ月、平面的にしか見えていなかった友人の奥行きが増したように思える。

(津田塾大学英文学科・上野文子)

●わざわざ八王子まで行って何をするんだろう、これが初めに私が思ったことだ。私達の中でいつも足りないものがある。それは目的や目標をもつこと。私はクラスの友達のことをよく知りたかった。ほとんど寝ずにお互いのことを語り合った。人は自分の本当の気持ちのうちあげ、うちあげられて、互いに頼り合うようになる。寝ずにむかえた朝、仲間と緑の中を歩いた。雲がかかり、鳥はさえずり、建物は不思議な形をしていた。

(文教大学女子短期大学部英語英文科・小幡志穂)

平成9年4月～5月新入生オリエンテーション合宿実施状況

学校名・学科名	学生	教員	合計	
●4月(31グループ)				
東京薬科大学(新入生歓迎キャンプ)	*226		226	
恵泉女子学園大学・人文学部	*243	19	262	
中央大学・独文学専攻	83	10	93	
日本医学技術専門学校	49	8	57	
中央大学・心理学コース	68	2	70	
共栄学園短期大学・英語、秘書専攻	150	24	174	
共栄学園短期大学・社会福祉学、児童福祉学専攻	288	22	310	
中央大学・国際交流センター(留学生)	159	3	162	
東京都立大学・電気、電子情報学科	80	10	90	
共立女子大学・食物学科	99	14	113	
東京工芸大学・建築学科	133	20	153	
東京都立大学・機械工学科	42	9	51	
東京職業能力開発短期大学校	84	11	95	
港湾職業能力開発短期大学校	55	5	60	
東京都立大学・工業化学科	59	8	67	
日本女子大学・社会福祉学科	88	13	101	
お茶の水女子大学・文教育学部	261	21	282	
お茶の水女子大学・理、生活科学学部	322	21	343	
武蔵工業大学・電子通信工学科	147	16	163	
大妻女子大学・社会情報学部	99	9	108	
東京会計法律学園	*148	6	154	
東京都立短期大学・経営システム学科Ⅱ部	118	15	133	
東京コンピュータ専門学校	144	7	151	
中央大学・教育学コース	58	8	66	
東京コンピュータ専門学校	188	8	196	
東海大学・西洋史学専攻	55	6	61	
東京都立医療技術短期大学	269	54	323	
大妻女子大学・児童学科	118	14	132	
東京学芸大学・幼児教育学科	27	5	32	
十文字学園女子短期大学・生活学専攻	261	9	270	
慶應義塾大学・国際センター(留学生)	88	16	104	
●5月(26グループ)				
東京会計法律学園	*172	8	180	
東京基督教大学・神学部	46	9	55	
東京会計法律学園	*200	7	207	
東京学芸大学・化学教室	30	4	34	
東京学芸大学・物理学教室	28	4	32	
東京学芸大学・生物学教室	34	5	39	
東京学芸大学・地学	27	4	31	
東京学芸大学・理科教育学教室	13	2	15	
日本女子大学・教育学科	69	13	82	
東京工科大学・情報工学科	210	16	226	
東京工科大学・情報通信工学科	119	12	131	
東京工科大学・電子工学科	192	13	205	
東京工科大学・機械制御工学科	220	16	236	
津田塾大学・英文学科	244	12	256	
東京学芸大学・自然環境科学教室	44	7	51	
東京学芸大学・欧米文化教室	25	2	27	
明治学院大学・第Ⅱ部社会学科	99	13	112	
白梅学園短期大学・保育科	*195	20	215	
文教大学女子短期大学部・英語英文科	247	10	257	
武蔵野外語専門学校	23	9	32	
東京都立短期大学・経営情報学科Ⅰ、Ⅱ部	192	16	208	
東京都立大学・社会学科	45	6	51	
大妻女子大学短期大学部・実務英語科	177	8	185	
東京都立短期大学・文化国際、健康栄養学科	124	24	148	
東京農工大学・環境資源科学科	62	14	76	
千葉大学・物理学科	40	4	44	
計 57グループ(31校)	実人数	7,086	651	7,737
	延人数	8,023	700	8,723

注.*は2泊



自己紹介し合う医療技術短大の新入生たち—大セミナー室にて

利用状況

97年3月～5月
* 同月2回利用
日隔りを除く

3月(80グループ、延六、六八一八)

- 東京都立大学助教授 大和 毅彦
- 駒澤大学助教授 谷敷 正光
- 東京都立大学助教授* 江原由美子
- 成蹊大学ケンブリッジ大学短期留学 事前合宿
- 東京学芸大学教授 金谷 憲
- 中央大学アナウンス研究会
- 共立女子大学手話サークル
- 駒澤大学教授 瀬戸岡 紘
- 東京都立科学技術大学福利厚生委員会
- 東京都立大学教授 宮川 彰
- 東京理科大学教授 狩野 紀昭
- 筑波大学数学教育研究室
- 東京外国語大学助教授 渡邊 啓貴
- 東京工科大学水泳部
- 東京学芸大学KITC
- 早稲田大学教授 大槻 義彦
- 東京大学比較文学比較文化研究室
- 杏林大学教授 斎藤 元秀
- 東京学芸大学教授 内田 道雄
- 中央大学助教授 遠藤 喜佳
- 東京経済大学文化会リーダーーズマン キャンプ
- 千葉大学教授 武蔵 武彦
- 立教大学教授 正田 康行
- 中央大学教授 井村 進哉
- 中央大学・早稲田大学合同辻山ゼミ
- アイセック早稲田大学合同辻山ゼミ
- 早稲田大学コンチエルト
- 千葉大学教授 工藤 秀明
- 千葉大学助教授 佐藤 宗子
- 早稲田大学絵画会
- 野沢 敏治
- 千葉大学教授 野沢 敏治
- 東京薬科大学生活協同組合
- 中央大学教授 吉沢 四郎
- 埼玉大学助教授 伊藤 孝
- 千葉大学教授 阿部 清司

- 中央大学教授 川島 康男
- アイセック上智大学委員会
- 青山学院大学教授 石川 信男
- 専修大学教授 柘植 敏治
- 中央大学教授 外間 寛
- 中央大学教授 木島 淑孝
- 横浜国立大学学生部厚生課
- 多摩大学助教授 杉田 文章
- 東京会計法律学園職員研修*
- 神奈川大学助教授 鳴瀬 成洋
- 福井工業大学助教授 芳野 越夫
- 亜細亜大学助教授 植村 利男
- 東京大学教育学部附属高等学校
- 青山学院女子短期大学ハンドベルクワイア
- 東邦大学教職勉強会
- 獨協大学教授 古閑 彰一
- 山形大学助教授 岡本 賢吾
- 障害児発達科学研究会
- 第17回大学共同セミナー
- フランス語応用普及協会*
- 言語研究会
- 郡内研究会
- マレーシア政府派遣留学生(日本イノドネシア科学技術フォーラム)
- 東京キリストの教会
- 朝日カルチャーセンター・横浜
- ワークショップセンター
- トランスパーソナル研究会
- アトピック子地球の子ネットワーク
- 国際理解教育センター
- 日本人間工学会
- ライアの会
- 文学教育研究者集団
- 山梨青年心理学研究会
- 国際教育交流協会
- アムウェイ山崎グループセミナー/イメージメーカーアカデミー/ヒューマンライフセンター/八王子そごう/海洋バイオテック/ロジー研究所/新情報処理開発機構/生活協同組合グループとうきょう
- (個人利用)
- 高千穂商科大学助教授 岩田 伸人
- 4月(74グループ、延六、一〇五人)
- 桜美林大学教授 大庭 篤夫

- 青山学院大学教授 中澤 進一
- 東京薬科大学新歓祭
- 埼玉大学教授 福岡 安則
- 明治大学教授 西野 万里
- 東京学芸大学教授 山田 有策
- 埼玉大学教授 山口 和孝
- 千葉大学助教授 広井 良典
- 駒澤大学教授 寺中 良二
- 中央大学独文学専攻新入生オリエンテーション
- 中央大学心理学研究室新入生オリエンテーション
- 大妻女子大学教授 大野 清志
- 明星大学教授 光成 豊明
- 駒澤大学教授 谷敷 正光
- 中央大学国際交流センターオリエンテーション
- 東京都立大学電気・電子情報学科新入生ガイダンス
- 共立女子大学食物学フレッシュマシナリー
- 東京工芸大学建築学科新入生オリエンテーション
- 東京都立大学機械工学科新入生ガイダンス
- 杏林大学教授 熊谷 文枝
- 東京都立大学工業化学科新入生オリエンテーション
- 日本女子大学福祉学科新入生オリエンテーション
- 明治大学野田・江田ゼミ
- 明治大学・川口短期大学森久ゼミナール
- 東京都立大学史学科新二年生オリエンテーション
- 日本大学教授 小林 晃
- 中央大学国際交流センター
- お茶の水女子大学教育学部新入生セミナー
- お茶の水女子大学理・生活科学部新入生セミナー
- 武蔵工業大学電子通信工学科フレッシュマシナリー
- 工學院大学助教授 浮田 静雄
- 大妻女子大学社会情報学部新入生オリエンテーション

- 慶應義塾大学教授 笠井 昭次
- 東京都立短期大学経営システム学科第II部新入生オリエンテーション
- 中央大学教育学研究室新入生オリエンテーション
- 東海大学西洋史学専攻新入生研修会
- 東京都立医療技術短期大学新入生オリエンテーション
- 大妻女子大学児童学科新入生オリエンテーション
- 東京学芸大学幼児教育学科新入生合宿
- 東京農工大学教授 秋山 三郎
- 立教大学教授 中江 幸雄
- 法政大学・武蔵大学合同 古澤ゼミ
- 桜美林大学教授 上坂 昇
- 駒澤大学教授 大久保治男
- 慶應義塾大学国際センター新入留学生オリエンテーション
- 東京学芸大学助教授 小林 正幸
- 一橋大学教授 村田 光二
- 専修大学教授 麻島 昭一
- 武蔵工業大学教授 増田 陳紀
- 獨協大学教授 宮川 淑
- 獨協大学教授 白鳥 正孝
- 恵泉女学院大学人文学部新入生フェロシッパ
- 日本医学生物専門学校新入生オリエンテーション
- 玉川大学生物自然研究部
- マレーシア政府派遣留学生(日本イノドネシア科学技術フォーラム)
- 共栄学園短期大学英語・秘書専攻新入生オリエンテーション
- 共栄学園短期大学住居学・社会福祉学科新入生オリエンテーション
- 東京職業能力開発短期大学校新入生セミナー
- 港湾職業能力開発短期大学校新入生オリエンテーション
- 神奈川大学助教授 堀野 定雄
- 東京会計法律学園就職セミナー
- 東京コンピュータ専門学校新入生オリエンテーション*
- 東邦大学教授 大島 範子
- 十文字学園女子短期大学家政学科交

- 歓会
- トランスパーソナル研究会
- 山王教育研究所
- 日本建築学会
- 教育者教育研究所
- ドラゴン/ベルモン/化粧品
- (個人利用)
- プリンガムヤング大学教授
- ブルース・ハーフェン
- 大成建設
- ベネゲット・トレイディング
- 大谷洋子
- 5月(78グループ、延五、九一一八)
- 法政大学助教授 鈴木 智之
- 中央大学現代社会科学研究会
- 学習院大学シエイクスピア・ドラマ・ソサエティ
- 芝浦工業大学電子計算機研究会
- 中央農業白門会
- 東京学芸大学助教授 大久保 武
- 日本大学教授 北野 弘久
- 駒澤大学教授 竹内 啓一
- 学習院大学教授 坂本孝治郎
- 中央大学助教授* 田中 拓男
- 成蹊大学教授 対木 隆英
- 東京学芸大学障害児教育学科特別専攻科オリエンテーション
- 一橋大学教授 山澤 逸平
- 東京学芸大学新入生合宿研修
- 化学科
- 物理学科
- 生物学科
- 地学科
- 理科教育学科
- 日本女子大学教育学科新入生オリエンテーション
- 東京工科大学フレッシュマシナリー
- 情報工学科
- 情報通信工学科
- 電子工学科
- 機械制御工学科
- 法政大学教授 陣内 秀信
- 筑波大学準硬式野球部
- 津田塾大学英文学科新入生オリエンテーション
- 一橋大学助教授 湊 博昭

開催予告

●第14回大学教員研修プログラム●

よりよい大学教育の方法を求めて

教える授業から学ぶ授業へ

1997年9月20日～21日(土～日、1泊2日)

◆講演

教えることと育つこと

国際基督教大学大学院教育学研究科教授 中野照海氏

◆提題

- A. 大人数教室で学生参加を促す法
亜細亜大学教養部教授 栗田充治氏
- B. 大規模クラスにおけるグループワーク——私の授業経験から——
慶應義塾大学総合政策学部教授 草野 厚氏
- C. プレゼミ(一年入門ゼミ)の可能性
和光大学人文学部教授 佐治俊彦氏
- D. 知的感動への刺激——私の授業体験から——
東京女子大学文理学部教授 福田一郎氏

■募集人員: 約50名 ■申込締切: 9月9日 ■対象: 主として教育歴数年以内の教員 ■参加費: 20,000円

●第34回大学教員懇談会●

入試と就職、そのはざまにある大学

1997年10月4日～5日(土～日、1泊2日)

◆講演

大学と社会

一橋大学学長 阿部謹也氏

◆パネルディスカッション

1. 高校から見た大学入学試験問題について
東京都立西高等学校校長 横 學 氏
2. 大学入学試験の改善
中央教育審議会委員・メディア教育開発センター所長 坂元 昴氏
3. 就職ニーズと大学専門教育について
前会津大学学長・福島県顧問 國井利泰氏
4. 経済社会の変化と人材教育
日本経営者団体連盟教育部部長 田中宣秀氏

■募集人員: 約60名 ■申込締切: 9月26日 ■対象: 大学の教職員 ■参加費: 15,000円

●第175回大学共同セミナー●

地球市民になろう

——環境破壊・戦争・貧困・民族紛争の解決の道を探る——

1997年10月24日(金)～26日(日)

◆セクション演習

- A. 戦争は不可避か 東京大学大学院総合文化研究科教授 油井大三郎氏
- B. 「動物園」から考える環境問題と私達の生活
神戸大学大学院国際協力研究科教授 ロニー・アレキサンダー氏
- C. 民族共存のあり方を求めて
早稲田大学政治経済学部教授 伊東 孝之氏
- D. 貧困の罨からの脱出——「持続可能な発展」を求めて——
恵泉女学園大学人文学部教授 石井摩耶子氏
- E. 非暴力は世界を変える
東北大学法学部教授 大西 仁氏

■募集人員: 約100名 ■申込締切: 平成9年10月14日 ■対象: 国公立大学、短大に在籍する学生および社会人 ■参加費: 12,000円

●問い合わせ先: 大学セミナー・ハウス企画室

TEL 0426-76-8532 FAX 0426-76-0266

東京学芸大学自然環境科学教室新入生合宿
東京学芸大学講師 川手 圭一
武蔵工業大学教職課程 郭 洋春
明治学院大学社会学科第II部フレッシュマンキャンパス 奥村 哲
立教大学助教授 郭 洋春
東京都立大学助教授 奥村 哲
白梅学園短期大学保育科新入生オリエンテーション 南雲 智
東京都立大学助教授 南雲 智
文教大学女子短期大学部英語英文科フレッシュマンセミナー 須藤 真明
東京学芸大学教授 須藤 真明
東京都立大学社会学科新二年生ガイ

ダンス 中央大学教授 内田 孟男
中央大学カールトン大学短期留学事前合宿
東京都立短期大学経営情報学科I部・II部 新入生オリエンテーション
東京都立大学社会学科福祉学科新入生歓迎セミナー 大妻女子大学短期大学部実務英語科研修会
東京都立短期大学文化国際・健康栄養学科新入生オリエンテーション 東京農工大学環境資源科学科新入生合宿オリエンテーション

千葉大学物理学科新入生オリエンテーション
順天堂大学医学部M2クラスセミナー
東京会計法律学園就職セミナー*
東京基督教大学神学部新入生オリエンテーション
墨田川高等学校 武蔵野外語専門学校新入生オリエンテーション
淑徳大学助教授 田嶋 淳子
淑徳大学助教授 野田 陽子
郡内研究会
クリエイティブ・アート実行委員会

日本ナザレン教団教会学校部 横浜シティ・フィルハーモニック
東京キリストの教会
ゼロロウアカデミー
唯物論研究協会
奇術クラブ「マジックエコー」
国立病院東京災害医療センター
ドラゴン/環境管理センター/山村硝子**/グレラン製薬/安川電機/環境プロデュース/ダイエー(個人利用)
国立音楽大学教授 斉藤 浩子
日本哲学会 桜井 一江

●館長室から●

凄じい音を立てて大揺れにゆれる木々の梢を、どうなることかと不安な思いで眺めた、時ならぬ颯風通過のあと、猛暑の襲来。35度の日々の連続。「絶滅論」の共同セミナーで、「地球の人類圏が仕でかすこと」など討議したせい、これはもう、地球の向う近未来的様相の一端か、などと勘ぐりたくなるところ。梅雨空に戻り、うっとうしい雨に、「やれやれ、これでやっとまとまった」とホッとさせられたのも、何かおかしなものです。

例年通りの四月、五月の新入生オリエンテーションの賑わいも、六月になると潮が引くようにさっと消えます。来館者のない月末をえらんで施設整備期間にあてました。本年は例年通りの諸設備の安全点検と修理に加えて、開館以来はじめての空調ダクトの大掃除を試みました。宇宙服のような装備に身を固めた作業員による大々的なゴミ集め。吸引され収集されたゴミの塊に、予想はしていたもの、改めて吃驚。本館も一層クリーンな環境で皆様をお迎え出来ることになりました。ところで、新入生のオリエンテーションに集まった各大学の新人の合宿生活についての本音を語ってもらったのを、「新入生合宿に思う」の記事にまとめてみました。「山村のような不思議な環境」にはじまり、「何という山の中と思ったら清潔」、「自然は豊かなが、TVもない簡素な生活」でも、「それだからこそ、先生とも友達とも、人と人がつながり結ばれることが出来たのだと思う」には、「そうなんです」と膝を打ちたくなりました。

表紙の写真はフレッシュマン・セミナーでのキャンプファイヤー(96)とスコッティッシュダンス(97)。写真提供は文教大学女子短期大学部英語英文科大八木敦彦講師。「わたしたちの合宿」(12頁)参照。

セミナー・ハウス

1997年3・4・5月分(年4回) 第147号

発行=財団法人 大学セミナー・ハウス
〒192-03 東京都八王子市下柳1-887
TEL0426-76-8511 FAX0426-76-1220
振替口座 00150-1-74590

発行人=岡 安子
編集=大学セミナー・ハウス企画室
制作=株式会社 清水工房

SEMINAR HOUSE

The Quarterly Journal of Inter-University Seminar House
No.147 (March~May, 1997)